

JESCO 豊田PCB廃棄物処理事業だより(No.204)

1. PCB処理安全監視委員会について

3月2日(火)に、令和2年度第2回「豊田市PCB処理安全監視委員会」(主催:豊田市)が豊田PCB処理事業所で開催されました。

今回の監視委員会は新型コロナウイルスへの対応として、参加者を監視委員会委員、豊田市、愛知県、環境省及びJESCO等に限定するとともに、換気の徹底、手指のアルコール消毒、マスク着用をして開催されました。

JESCOからは、豊田PCB廃棄物処理施設の処理実績や進捗状況、周辺環境への影響の状況などを報告し、PCB廃棄物処理が順調に進んでいることをご確認いただきました。

豊田市からは、豊田PCB廃棄物処理施設への立入検査の状況及び令和2年度PCB環境モニタリング調査について、いずれも問題のない状況であったとの説明がありました。

当事業所の処理エリア(愛知、岐阜、静岡、三重)の県及び政令市を代表して、愛知県から東海地区PCB廃棄物処理計画について説明があり、このエリアのPCB廃棄物が残らずJESCOに搬入されるようにするPCB廃棄物の掘り起こし等の取組みについて説明がありました。



委員の方々からは、令和4年度末までの期限内に処理が完了するように、JESCOについては安全操業の継続を、行政については掘り起こし等の取組みの一層の推進を求めるご意見がありました。

環境省からは、全国的なPCB廃棄物処理進捗状況、都道府県の取組みへの支援、及びテレビCMや楽天サイトを活用した全国的な広報の実施等の取組み説明がありました。

2. 総合防災訓練の実施

地震発生を想定して、安全確保やその後の防災対策本部の設置、被害状況(死傷者、火災、PCB漏洩等の有無)の把握、各関係機関への通報などを行う総合防災訓練を、3月11日(木)に実施しました。

地震発生直後は身の安全を優先し、JESCOと運転会社の全員が自身の安全確保を図りました。揺れが収まった後に、新型コロナウイルス感染対策で「3密」を避けながら避難し、人員点呼による安否確認を行いました。防災対策本部と現地指揮本部を立ち上げ、緊急時点検による火災発生、PCB漏洩、及び設備の被災状況等を確認しました。緊急時対応マニュアルに沿った点検指示、報告、記録等の連帯活動訓練を実施しました。



PCB処理事業紹介シリーズ 第41回

今回は豊田PCB廃棄物処理施設で処理をしているPCBがどのようなものかをご紹介します。

PCBはPoly Chlorinated Biphenyl(ポリ塩化ビフェニル)の略称で、ポリ塩化ビフェニル化合物の総称です。その分子に保有する塩素の数や位置により209種類の異性体が存在します。

その性質は、水に溶けにくく、沸点が高い、熱で分解しにくく不燃性、電気絶縁性が高いなどの特性から、電気機器の絶縁油、熱交換器の熱媒体、ノンカーボン紙など様々な用途で利用されました。

しかし、脂肪に溶けやすい性質から、慢性的な摂取により体内に徐々に蓄積し、中毒症状として様々な症状を引き起こすことが報告されています。

PCBの毒性が大きくとりあげられた事件として、カネミ油症事件があります。この事件は、米ぬか油(ライスオイル)中に、熱媒体として用いられたPCB等が混入したことが原因で、昭和43年に西日本各地で、米ぬか油による食中毒が発生しました。当時の患者数は約1万3千名に上ったと言われています。

一般にPCBによる中毒症状として、目やに、爪や口腔粘膜の色素沈着、座瘡様皮疹(塩素ニキビ)、爪の変形、まぶたや関節のはれなどが報告されています。

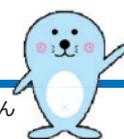
日本国内にある高濃度のPCBを無害化処理する唯一の会社が、我々JESCOです。



デジ丸

問い合わせ先

アザラシのびーちゃん



中間貯蔵・環境安全事業株式会社 (JESCO)

豊田PCB処理事業所 電話: 0565-25-3110 FAX: 0565-24-0543

【豊田PCB処理事業HP】 <https://www.jesconet.co.jp/facility/toyota/index.html>